

沖縄の地域資源の活用・沖縄生まれのおすすめ商品

むかし懐かしい
沖縄の生活を体験

渡名喜村

古民家観光ツアー

活用した地域資源

渡名喜県立自然公園、もちきび、島ニンジン、島らっきょう、冬瓜、ニガナ、よもぎ、サクナ、アーサ、マグロ、ソデイカ

事業概要

那覇よりフェリーで約2時間の渡名喜島。島民約450人の島で、島民を挙げて観光事業に取り組んでいる。離島という短所を長所に変えた事業を展開している。



株式会社 福木島となき
代表取締役 南風原 豊さん

生産者インタビュー

今回の認定の経緯をお聞かせ下さい。

私達が事業を初めたのが平成19年度の4月からなのですが、同年9月にこの地域資源プログラムの認定のお話を頂いて、昨年の11月から認定を受け活動しています。渡名喜村には米軍基地がある為、国からの公金があります。その公金で渡名喜村ではなにかが必要か？ということから始まりました。平成12年に島民に聞き取り調査とアンケートを実施した結果、観光に力を入れて島を活性化しようという意見がありました。その為に食堂新設、レンタカー設置、宿泊施設増設使われていない民家の改装)など、平成13年から4年間かけ取り組んできた結果だと思えます。

具体的なプログラムをお聞かせ下さい。

基本的には、渡名喜島での生活スタイルの提案です。農業体験や海人体験というメニューはあるんですが、その人まかせです。我々はこういうメニューがありますと紹介しますが、あくまで観光客の自主性を尊重します。例えば、海辺で本を読みたいとかゆつくり島を廻つてみたい等と言う人もいます。元々癒しを求めてきた



環境にやさしいエコカー

のですから無理に体験をしてもらうより、渡名喜村で生活をしてもらうことで、充分な体験になるのではないかと思います。

この事業に参加されたきっかけは何だったんですか？

私は元々渡名喜村出身なのですが、渡名喜村の現状として、島には高校がなく、みんな進学する為に本島の高校に行きます。そしてそのまま就職してしまい、渡名喜村の人口は減少していききました。島に戻りたい人も多いのですが、島では就職口が少なく戻れないという現状です。このままでは若い人が育たなくなると思い、役場からも若い人が活躍出来る現場を作つて欲しいという要望が上がり始めました。この事業はこの仕事を通して、島で若い人の働き口を増やす目的もありました。各種インスタクターの育成や移住、新しい店舗や企業の誘致等にも期待しています。

今後の展開は？

渡名喜村と島民もタイアップして自然と伝統文化を活かした交流事業を今年から始めます。



株式会社 福木島となき
〒901-3692 沖縄県島尻郡渡名喜村1909番地
TEL 098-989-2990
http://www.tonakijima.jp/top.jsp

沖縄本島や島外のかたを呼んで、ボランティア活動(村木:福木の植え付け等)をしてみようと思つています。この事業を通して、となき地域活性化組合を発足させ、色んな事業展開の話をして欲しいと思います。あと渡名喜村の特産品の開発です。まだ試験的ですが、山ぶどう(琉球がねぶ)を植え付け、メーカーと協同で化粧水等の開発をし、事業化を目指しています。

今年映画の撮影もあり知名度もアップしてきた渡名喜島。長期滞在型で癒しを求める観光客には密かな渡名喜島ブームが起こることだろう。